

# 平成25年度 理科の授業改善のための方針

## 1. 本年度の方策

### ①授業で生かす

- ・科学的な知識や概念の定着を図り、科学的な見方や考え方を育成するため、観察・実験など科学的な体験活動を一層充実させる。
- ・問題解決学習の充実を図る。(予想→意見交流→解決方法検証→実験・観察→結果→考察などの学習の流れを各学年で共通して行う)
- ・予想や実験結果を科学的な言葉や概念を使って表現させることで、言語活動の充実を図る。

### ②全校で生かす

- ・図や表、グラフにして記録させる。
- ・道徳と関連付けて、理科の特質に応じて指導する。
- ・話し合い活動や表現活動の機会を積極的に設け、言語活動の充実を図る。
- ・科学の読み物を読んだり科学番組を見たりすることを勧め、話題として取り上げる。
- ・実験器具や観察する道具を一人一つ確保する。

## 2. 児童の実態

- ① 理科においては、新しい知識を知りたいという意欲が高く、学習に意欲的に取り組んでいる。
- ② 明確な課題について、仮説を立てて考えることができる児童が多い。
- ③ 実験の様子などを観察し記録することができる児童が多いが、わかったことを自分の言葉でまとめる力に不安がある児童もいる。
- ④ 実験結果や考察した内容を発表する際に、一部の児童が発表し、それに同意していくだけの場面が比較的に多く見られる。
- ⑤ 体験活動など、実際の作業や本物の観察等を通じて学習することによって、知識・理解を深める児童が多い。
- ⑥ 実験器具や道具の使い方など、伝えたことを的確に理解し行動できる児童が多い。

学年	問題点	重点目標
3年	・実験した内容はよく理解しているが、覚えなければならない言葉の理解がやや乏しい。	・プリントなど補充問題をさせることで、基礎的な用語をしっかり身に付けさせる。
4年	・動植物などの自然環境に乏しい。	・視聴覚教材を活用し、無味乾燥な授業にならないようにする。
5年	・観察や実験等の活動が不足、または難しいものがあり、授業中の体験活動が乏しい。	・体験活動を重視した学習活動によって、個々の意欲・関心が高まり、知識・理解へとつなげるようにする。
6年	・実験したことや観察したことと、知識・理解の結びつきに課題がある。	・実験や観察の計画段階で、なぜそれを行う必要があるのか十分に吟味させるとともに、してみたいことをあげさせる。

## 3. 平成24年度の成果と課題(☆成果 ●課題)

☆3年生以上の全学年が課題に対する仮説をたて検証する問題解決学習により、見通しをもった学習を展開することができた。

☆体験活動を重視した学習活動によって、個々の意欲・関心が高まり、知識・理解へとつなげることができた。

●単元によっては、観察や実験等の活動が不足、または難しいものがあり、授業中の体験活動について視聴覚機器を活用するなど、さらなる検討をする必要がある。

●より積極的に児童相互の話し合い時間を確保し、科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする学習活動が充実するよう配慮していく。